2011年1月18日

2011年　新年賀詞交歓会　木村社長挨拶（要旨）

記者各位

当社（社長：木村 康）は1月17日（月）、ザ・プリンス パークタワー東京（東京都港区）にて特約店経営者等、約1，000名をお招きして、2011年新年賀詞交歓会を開催いたしました。
当社社長 木村の挨拶（要旨）を以下のとおりお知らせいたします。

寒さが一段と厳しくなり、また大雪に見舞われるなか、特約店の皆様の各地域における「エネルギーの安定供給」に対する取組みをたいへん心強く、また頼もしく感じている。

昨年の国内石油需要は、エコカー減税などの景気対策に加え、夏の記録的な猛暑の影響もあり、年間を通して前年比増加となる見込みであるが、構造的な需要の減少傾向が解消したわけではなく、今年は、ガソリン、燃料油合計ともに再び減少する見通しである。
こうしたなか、当社は昨年7月の発足以降、「劇的な事業変革の早期実現」に向けて邁進している。昨年10月までに、日量40万バーレルの精製能力削減を達成し、11月に新発売した統合の象徴でもある新自動車用エンジンオイル「ENEOS　SUSTINA（サスティナ）」も順調なスタートを飾ることができた。
今年は、いよいよブランド統一も完了する。新生・ENEOSが、お客様に最も支持されるダントツのトップブランドになるよう、将来にわたる安定供給、競争力ある商材の提供により、特約店の皆様をバックアップしていく。
事業変革を推進していくにあたり、年頭、社員に対しては、昨年来申し上げている「当事者意識」、「プロ意識」、「変革意識」の「3つの意識」に加え、『お客様の期待を受け、お客様の満足を最大限にするように努力すること、そのために一人ひとりが想像力を働かせ、躊躇せず変革を行うこと。その結果が、お客様から当社の商品・サービスを選択していただくという「かたち」になって返ってくるのである。』という「顧客満足（CS）」への思いを伝えた。当社の社員はこれらの意識を胸に、熱意をもって皆様とともに目の前の課題に取組んでいく。

私の今年のキーワードは「和」とした。これはJXエネルギーとしての「和」と石油業界全体としての「和」、2つの意味を持っている。
JXエネルギーの「和」については、旧新日本石油・旧ジャパンエナジーの社員が1つの目的をもって仕事をし、それを成し遂げることによって本当の融和を進めることである。
業界全体の「和」については2つあり、1つ目は、元売と流通を担う特約店の皆様との「和」である。お互いが各々の役割を果たすことによって石油精製・販売事業で安定的に収益を上げ、それを再生産につなげていくことが、消費者、お客様に対する安全・安定供給につながるという自覚を持ちながら、ともに手を携えて、エネルギーのX（みらい）を一緒に切り拓いていこう、という意味の「和」である。
2つ目は、系列を越えた業界に関わる方々との「和」である。業界に関わる皆様がそれぞれ当事者意識を持って、お互いに尊敬し合いながら、競争と協調していくことで、業界全体が発展するものと考えている。

業界のリーディングカンパニーのトップとして、この「和」を念頭に経営の舵をとってまいるので、特約店の皆様におかれては「地域におけるエネルギーの安定供給」という社会的使命を担い続けていただきたい。
日本のエネルギーのX（みらい）のために、新生・ENEOSグループが一丸となり、次の10年、20年に向かって「最強のパートナーシップ」を組んで、石油業界の健全な発展をリードしていきたいと考える。

以　上